

てお父様もお母様も大笑したんだつたわ。さうそれから薄を活けてもう一つ――萩も活けて、それからお團子やお芋もお月様に差上げたわ」と一人でいひました。

三人共もつとお帳面をくつてゆきますと今度は運動會のお遊戯やおみこしの繪が出て来ました。又お正月のお飾りをした御門の繪もありました、又豆まきをしてお豆が鬼の體に當つてゐる繪も見ました。そして裕子さんも正子さんも照子さんも楽しい運動會や嬉しいお正月や面白かつた豆まきの夜のことが色々思ひ出されました。

三人は「お繪かきのお帳面つて本當に面白いのね。私達忘れてゐても繪を見るとすぐ楽しい事を思ひ出せるんですもの。」と皆同じやうに云ひました。「私あのお帳面を大事にして小學校に入つても出して見るかも知れないわ。」と照子さんが云ひました。「私大人になつてもおいておくわ。」と正子さんが云ひました。おしまひに裕子さんは「私だつたら、お家のおばあちゃんみたいになつてからでしまつておいて見たいわ」と云ひました。今日は丁度ガカ／＼と暖い日でしたのでお日様に當つていゝ氣持になつてお話してゐると何時の間にか、もうお歸りですよと先生がおつしやつたので照子さんも正子さんも裕子さんも自分のお帳面をお抽出にしまつて歸りました。

見えなくなつたお椅子

山本美代子

幼稚園のお部屋にあるお椅子。澤山ありますね。その澤山の中的一个のお椅子が或時ふつと見えなくなりました。元氣なお子さへ達が皆いらして御自分のお椅子に掛けましたよ、けれど一つ足りませぬね。淳ちやんは、……さう、この淳ちやんつて云ふとて元氣のいゝお坊ちやんのお椅子がなかつたのね。だから淳ちやんはとても困つて、一生懸命さがしました。

『僕のお椅子ない。どこへ行つたんだら。』つて。

オルカンの後へも行つて見ましたよ、流しの下の方もぞきましたよ、誰か間違へたんぢやないかとお友達のを一つ／＼見てまわりましたよ。それでも淳ちやんのはありません。

お友達も皆できがして上げました。先生もおさがしになりました。それでも見つかりません。どうしたんでせうね。でもその日は丁度みどりちやんがお休みでしたので、淳ちやんはみどりちやんのお椅子に腰掛けてゐました。

お歸りになつて皆歸つてしまつてからも、先生はもう一度よおくおさがしになりました。けれどやつぱりありません。先生は餘り、見えなくなつたお椅子の事はかり考へていらつしやいましたので、もう元氣なお子さんたちが歸つてしまつてからのひつそりとしたお部屋で澤山のお椅子さんが、ひそ／＼とお話してゐるのに氣がお付きになりませんでした。

お椅子さんたちは何をお話してゐたのでせう。さう、見えなくなつた一つのお椅子の事をお話してゐたのね。

「あの淳ちやんのお椅子君どうしたんだか知つてる？」「うん、知つてるよ」と淳ちやんのお椅子のすぐ隣りのお椅子が答へまし

た。皆は「どうしたの？教へて〜」と云ひました。そうしたら「話して上げようか、靜かに聞くんだよ。あのね、淳ちやんのは椅子君ね、ほら、淳ちやんつてとても元氣がよくて、らんばうだらう、だからいつも〜淳ちやんにいちめられてゐたんだ、ひきつられたり、ひつくりかへされたりしてね。だからあの椅子君は、どうにかして淳ちやんをいゝ子に上げてたいなあど云つてゐたんだよ。そうしてたうとう昨日、僕に丈、明日はどうにかして淳ちやんのお家でのお行儀を見て来る」と云つてゐたんだ。だからきつと淳ちやんのお家へ行つたんだよ」とそのお隣りのお椅子がお話して呉れました。皆は「そうだったの。それにしても早く歸つて來ればいゝのにね」と安心したり心配したりしてお話してゐたのでした。見えなくなつたお椅子はどうしたでせう。

椅子君は、淳ちやんのお家へ行かう、と思ひつくとお隣りの椅子さんにお話しておいて、次の日の朝早く、たつた一人でそいつと幼稚園をぬけ出して、トコ〜〜〜淳ちやんのお家さして歩いて行きました。電車道も上手に横切つてトコ〜〜〜。信號だつてちやんと知つてましたよ。ちやんと渡つてトコ〜〜〜トコトコ。あつちへ曲つたり、こつちへ曲つたりちやんと曲つてやつと淳ちやんのお家へ着きました。御門を開けてトコ〜〜〜入り、お玄關もガラツと開けて入り、ちよこんと立つて、誰方が出ていらつしやるのを待つてゐました。お母様が出ていらつしやいました。「あら幼稚園のお椅子さんちやないの？どうしたの？」とお聞きになりました。

「え、そうです。あのね、僕ね、幼稚園で淳ちやんはいつもとても

おいたなんです。だからお家ではどうかしらと見に來たんです。」

「まあそうですか、淳ちやんは、今幼稚園へ行つたばかりなんですけどね。ちや歸つて來る迄お部屋で待つていらつしやい。」とお母様はお椅子君を案内して淳ちやんのお部屋の内へ連れて行つて下さいました。そのお部屋はどんなでしたでせうね。

小さなお机がありました。その上は大變ちらかつてゐましたよ。それから椅子さんがひつくりかへつてゐました。幼稚園から來た椅子君は

「おや〜君もお家でいちめられてゐるんだね。僕、幼稚園にゐるんだけど僕もとてもいちめられるものだから今日は、お家ではどんなかしらと見に來たんだけどやつぱりおんなじだね。ねえ君、二人でよく考へて淳ちやんを、あんならんばうなかしらないい、子に上げてないか？」と云ひました。お家の椅子さんも、今迄は一人でほんとに家の淳ちやんは困つたものだと思つてゐた所でしたから大喜びで「そうしよう〜。」と云ひました。

二人でどうしたらいいかなあど考へてゐますと、さあ大變。お玄關の方でお母様のお聲がしてゐます。もう淳ちやんが歸つて來た様です。「只今！あのね、今日ね、幼稚園で僕のお椅子なかつたの、變だらう、僕それでとても困つちやつた。」

「おや〜そうでしたか。そうでせうね。淳ちやんが朝お家を出たらず幼稚園のお椅子さんがお家へ來たんですよ、淳ちやんに御用があるんですつて。だから淳ちやんのお部屋に連れて行つて上げましたよ、さ、行つてごらんさい。」と聞えます。二人のお椅子さんはそうだ！どこかへかくれてゐようと思ひついて、御

本がぎつしりつまつてゐる本箱の後へ、ひらべつたくなつてかくれました。息もしない様にしてち―つとして待つてゐます。淳ちやんが來ましたよ、ドタバタ〜。勢よく障子を開けて、這入つて來ました。

「厭だなあ、幼稚園の僕の椅子つたら、こんな所へ來るんだもの、僕困つちやつたんだよ。あら？ゐないぢやないか。おや〜僕のお部屋の椅子もゐないぞ？變だなあ。おーい椅子君どこだーい。出て來いよー。あつ僕の鉛筆もクレオンもゐないぞ一體どうしたんだらう。」と淳ちやんは大變困つてゐます。そうね、さつき椅子さんたちがかくれようとした時、クレオンも鉛筆もそのお話を聞いてゐて、僕もかくれてやらう、私も〜、と皆かくれてしまつたんですよ。だから淳ちやんは困つてしまつてね。「ねえ、椅子君、クレオン君、どこにゐるんだーい。出て來てよ。」とどなりました。

お部屋のお椅子さんは「淳ちやんこゝですよ」と小さな聲で云ひました。淳ちやんは「え？どこ？どこなの？ねえ」とお部屋中をさがしまわりました。けれど見つかりません。

クレオンも鉛筆も「こゝにゐるのに知らないの？〜」と小さな聲で笑ひながら云つてゐます。淳ちやんは、いくらさがしても分らないのでたうとう悲しくなり「いやーん、出て來てよー」と泣き出してしまひました。

幼稚園から來たお椅子君は大きな聲で、「淳ちやん。淳ちやんが餘り僕たちをいぢめるからかくれちやつたんだよ。もうあんなにらんばうしない？」と云ひました。淳ちやんは泣くのを止めて、

「うん、もういぢめたりしない。だから出て來てよ、ね。」と云ひました。そこで幼稚園の椅子君と、お部屋のお椅子さんと鉛筆君とクレオンさんは、「もう可哀想だから出て上げませうか？」と相談して、本箱の後から出來てました。淳ちやんは、「なあんだそんな所にゐたの？僕方々中さがしたんだけど分んなかつた。もう厭だよかくれたりしちや。」

とお椅子さんやクレオンさんや皆の頭をなでながら云ひました。お椅子さんやクレオンさんは、淳ちやんに頭をなでられる事なんて始めてなので、うれしくなつて、

「え〜も、淳ちやんが、子になれば僕たちかくれたりなんかきつとしないよ」

と云ひました。そして幼稚園から來たお椅子はよかつた〜と思ひながら

「淳ちやん。ちや又明日から幼稚園で遊びませうね」

と云つて、淳ちやんのお家から幼稚園へ歸つて行きました。

今度も道をまちがへたりしないで、ちやんと幼稚園のお部屋へ着きましたよ。お部屋へ歸つて見ますと、澤山のお友達が皆心配して待つてゐましたね。そのお椅子さんたちも、歸つて來たお椅子さんから、淳ちやんがどてもいゝ子になりましたよとお話を聞いて、皆よかつたね〜と大喜びしました。

きつと明日の朝先生も、昨日見えなかつたお椅子君がちやんと歸つて來てゐるのを御覽になつて、およろこびになるでせうね。

おしまひ